

⑦城郭-1 三仏寺城 さんぶつじじょう

〈時代〉平安～戦国時代（12～16世紀）〈県指定〉昭和46年9月14日

〈員数〉城郭全体32,870㎡ 〈所在地〉三福寺町井之上他

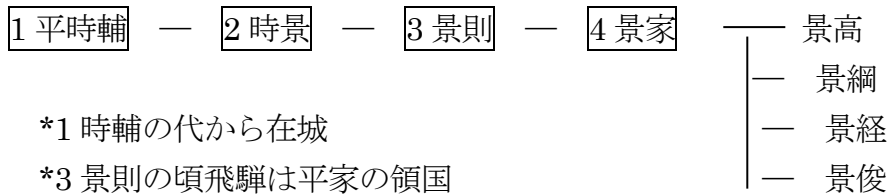
〈所有者〉三福寺共有他 管理者・三福寺文化遺産保存会

三福寺集落の背後に位置し、北に向かって延びる城山（標高660メートル）の山頂に築かれた山城で、尾根に設けられた4カ所の平地が主要な遺構である。三福（みさき）神社のかなり東方から登る道が大手で、尾根に出てから右に登りつめた奥の平地が本丸跡であろう。平安時代の末に築かれ、飛騨では最も古い城跡である。保延、永治（1135～1142）の頃には●**平時輔**が飛騨の守としてこの城に在城した。●**3代目の景則**の頃から飛騨は平家の領国となった。●**4代目景家**は4人の子息と共に京へ上っていたが、治承五年（1181）、源義仲の軍に攻められ落城し、景家の室●**阿紀伊**の方と二子で城主景綱の●**息女鶴の前**は行方知れずとなった。義仲勢は飛騨の良馬を求めたといわれる。

弘安（1278～1288）のころには、地頭の左衛門尉●**藤原朝高**が、続いて畑六郎左衛門尉●**藤原安高**が在城したと伝える。

大永元年（1521）には、●**三木直頼**が在城し、天文16年（1547）、三木家臣●**平野右衛門尉**が入城したが、その子、安室（やすむろ）のとき鍋山城に転じ、直頼の男●**三木直弘**が入城した。永禄7年（1564）武田の武将山県三郎兵衛が飛騨へ討ち入り、直弘は城に火をかけ、桜洞の本城へ退いた。以後、三仏寺城は廃城になった。

飛騨守



*1 時輔の代から在城

*3 景則の頃飛騨は平家の領国

*4 景家京都に出ているとき、木曾義仲に攻められ落城

三仏寺城の下にある歓喜寺は、金森4代頼直が照蓮寺13世宣明の子治部卿（じぶきょう）のために建てた寺である。裏山に珍しい木地師の集団墓地がある。木地師の集団墓地は、ここと東山の宗猷寺の2ヶ所だけである。